

問1 魚を卵からかえした稚魚などを、いけすなどで大きくなるまで人工的に育てて出荷する漁業を何といますか。

問2 昔と比べて魚の生産量が減っている中で、養殖漁業がさかんに行われるようになった一番の理由は何ですか。

問3 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何といますか。

問4 農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を何といますか。

問5 地産地消を行うことで、どのような良い効果がありますか。

問6 畜産のなかでも、特に乳牛を飼育し、牛乳やバターなどを生産する仕事を何といますか。

問7 ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、ふつうよりも早い時期に野菜をつくり出荷する栽培方法を何といますか。

問8 暖流と寒流がぶつかり、よい漁場となっているところを何といますか。

問9 その土地の気候や風土に合わせて、より育てやすくおいしい農作物の種類を新しく作り出すことを何といますか。

問10 漁港でとれたばかりの魚が集められ、買い手が値段を決めるために「せり」を行う場所を何といますか。

問11 群馬県や長野県の高原地域で、夏から秋にかけてキャベツやレタスをたくさん出荷しているのは、なぜですか。

問12 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになるまで守ってから海や川に放し、自然の中で成長させてからとる漁業のことを何といますか。

問13 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。

問14 海の中に「いけす」などの施設を作り、魚や海そうを人の手で管理して育てる漁業のことを何といますか。

問15 夏の涼しい気候などを利用して、野菜の育つ時期を普通よりも「遅らせて」栽培する方法を何といますか。

問16 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。

問17 標高が高く、夏でもすずしい気候を利用して、キャベツやレタスを育てる農業を何といますか。

問18 林業において、木と木の間隔を広げて日光が地面まで届くようにし、木の成長を助けるための作業を何といますか。

問19 漁港の近くに「加工工場」があることで、どのような良さがありますか。

## 答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 養殖業	卵からかえした稚魚などを、いけすなどを使って人工的に大きくなるまで育ててから出荷する漁業を「養殖業」といいます。
問2	答え 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため	とる漁業だけでは魚の数が足りなくなってしまうこともあるため、施設を利用して自分たちで計画的に育てることで、いつでも安心して魚を食べられるようにするのが養殖漁業の大切な役割です。
問3	答え 農業協同組合	農業協同組合（JA）は、農家同士が協力して農業経営を良くしていくための組織です。共同で肥料などの材料を買ったり、育てた作物を販売したりすることで、個人の農家だけでは難しい活動を支え、地域の農業全体を発展させる役割を担っています。
問4	答え 有機栽培	農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を有機栽培といいます。
問5	答え 農作物を運ぶトラックの燃料を減らし、環境を守ることができる	地元で生産されたものを地元で消費することで、遠くまで運ぶ必要がなくなります。これにより、トラックなどが排出する二酸化炭素を減らせるため、地球環境を守ることにつながります。また、地域の農家が元気になり、地域の産業が活性化するという良さもあります。
問6	答え 酪農	畜産のうち、特に乳牛を飼って牛乳やバター、チーズなどの乳製品を生産する仕事を酪農といいます。
問7	答え 促成栽培	あたたかい気候やビニールハウスを利用して、野菜を早い時期に育てて出荷する方法を促成栽培といいます。
問8	答え 潮目	あたたかい海流（暖流）と冷たい海流（寒流）がぶつかり、よい漁場となっている場所を「潮目」といいます。
問9	答え 品種改良	品種改良とは、より病気に強く、味や見た目が優れた農作物を生み出す技術のことです。農業試験場では、地域ごとの気温や土壌の特徴に合わせて、この品種改良がさかんに行われています。
問10	答え 魚市場	漁港でとれた魚を全国の食卓へ届けるための大切な中継地点です。魚市場では、多くの買い手が集まって「せり」という方法で魚の値段を決めるため、漁業の流通にとって欠かせない場所となっています。
問11	答え すずしい気候を好む野菜を、夏に育てることができるから	平地では夏に気温が高くなりすぎて、レタスなどのすずしい気候を好む野菜はうまく育ちません。そこで、夏でもすずしい高原地域を利用することで、夏の時期に新鮮な野菜を全国へ届けることができます。
問12	答え 栽培漁業	栽培漁業は、稚魚を放流して自然の海や川で育てる手法です。これに対して「養殖漁業」は、いけすなどの施設の中でえさを与え、完全に人の手で管理して育てるという違いがあります。
問13	答え 排他的経済水域の取り決めなどができたため。	遠洋漁業は、排他的経済水域の取り決めなどができたことにより、遠くの海で自由に漁ができなくなったため、1970年代から生産量が大きく減り続けています。
問14	答え 養殖漁業	海の中にいけすなどの施設を設けて、魚や海そうを計画的に育てる方法を養殖漁業と呼びます。栽培漁業は、卵からかえした稚魚を育ててから海に放す漁業のことなので、施設で最後まで育てる養殖漁業とは区別しましょう。
問15	答え 抑制栽培	抑制栽培は、標高の高い涼しい地域などを利用して、野菜の収穫時期を普通よりも遅らせる栽培方法です。他の地域で野菜がとれない時期に出荷できるため、高い値段で売ることができます。これに対して、ビニールハウスなどで温めて普通より早く育てる方法は「促成栽培」といいます。
問16	答え 将来にわたって魚をとり続けるため	一度にたくさんの魚をとってしまうと、魚が十分に育ったり増えたりする前にいなくなってしまうので、将来もずっと安定して魚をとれるように、今とる量を調整して、海にいる魚の数を守ることがこの取り組みの大切な理由です。
問17	答え 高冷地農業	標高が高い場所にある高原などは、夏でも気温が低くすずしいため、暑さを苦手とする野菜を育てるのに適しています。このような気候の特徴を活かした農業を高冷地農業と呼びます。
問18	答え 間伐	森の木々が育ってくると、木どうしが混み合って日光が当たりにくくなります。そこで、あえて一部の木を切り倒して間隔を広げる「間伐」を行うことで、残った木に十分な日光と栄養がいきわたり、丈夫に育つようになります。
問19	答え 獲った魚を新鮮なうちに加工して、製品として売ることができる	獲った魚をすぐに加工することで、保存がきくようになり、料理しやすくなります。このように工夫することで、魚の価値を高め、おいしい状態で全国に届けることができます。